

防災・少子化に伴う小中学校の再編について



堀切小 避難訓練

■基本方針

- ▼ 児童生徒の生命・安全を守るため、津波被害に対処する小中学校の防災対策を推進します。
- ▼ 適正規模・適正配置については、「小学校は6学級～18学級を基本とし、学校全体の児童数120人以上（1学級平均20人以上）、中学校は6学級～18学級を基本とし、学校全体の生徒数120人以上（1学級平均20人以上）を適正規模とし、包含する小学校を少なくとも2校以上とする」ことを基本とします。
- ▼ 小中学校の配置については、地域からの意見を十分に尊重し、進めていきます。

■防災対策（津波被害への対応）

- ・田原市は大きな地震と津波が予測されていることから、特に被害想定の高い堀切小等を安全な地域へ移します。

■適正規模・適正配置

- ・人口減少、少子化を背景に、田原市の児童生徒数の減少は歯止めがかかりません。特に、伊良湖小は平成27年度の3年生（4人）、4年生（5人）から複式学級になる見込みです。
- ・平成21年度、教育委員会にて全校児童生徒120人未満の学校を小規模校として適正化の対象とし、複式学級についてはその回避を図っていくこととしました。

(H27.4見込み)

対象小学校	六連(74)、大草(88)、南部(53)、高松(95)、若戸(77)、和地(58)、堀切(85)、伊良湖(35)、亀山(76)、清田(104)
対象中学校	野田(93)、泉(110)、伊良湖岬(117)



野田中 部活動激励会

- ・平成24年度、地域からの意見を反映させるため、順次対象地域に「学校を考える会（校区会長、PTA等）」の設立を依頼しました。

■対応方針

- ・これまで地域の意見等を踏まえ、地域の合意を前提として、下記の区分ごとに対応案を示します。

区分	I 緊急地域	II 先行地域	III 検討地域
学校名	堀切小、伊良湖小、和地小、伊良湖岬中	野田中、六連小	大草小、若戸小、亀山小、泉中、南部小、高松小、清田小

- ・小中学校の再編により遠距離となる児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバスの運行等により支援します。

■対応案（議論のたたき台）

◎対応案1 ～区分Ⅰ. 緊急地域～

- ・防災対策（津波）として、堀切小の伊良湖小への統合を図り、併せて伊良湖小の複式学級を回避します。
- ・伊良湖岬中を福江中へ統合することにより、小規模校の解消を図ります。新設小学校の設置は、伊良湖岬中跡地を予定し、併せて地域の総合防災拠点とします。

平成27年度 新設小学校設置を前提として、

①案 堀切小→伊良湖小 ②案 堀切小→和地小 ③案 堀切小・伊良湖小→和地小 に一時的に統合（①、③案により伊良湖小の複式学級を回避）

④案 平成32年度（新設学校開校）まで現状維持

平成28年度～31年度 新設小学校の設計、建設

平成30年度 伊良湖岬中を福江中（赤羽根中）に統合

平成32年度 新設小学校開校（堀切小、伊良湖小、和地小の統合）



伊良湖小 入学式

◎対応案2 ～区分Ⅱ. 先行地域～

- ・これまでの地域の意見等を踏まえ、野田中の田原中（赤羽根中など）との統合、六連小の田原東部小などとの統合を図ります。

平成27年度 野田中 → 田原中（赤羽根中など）

平成27年度 六連小 → 田原東部小など

◎対応案3 ～区分Ⅲ. 検討地域～

- ・対応案1、2以外の地域については、地域の十分な話し合いによる合意形成が必要であることから、「学校を考える会」の設置をお願いし、よりよい教育環境の実現に向けて協議してまいります。

■跡地（空き学校）活用等

- ・空き学校となった校舎・グラウンド・体育館は、地域の意見を尊重しつつ、地域への開放や防災拠点とするなど、その活用策を検討してまいります。
- ・各校区コミュニティ協議会のあり方については、地域の意見を尊重します（堀切市民館は、防災上の観点から移築することを協議してまいります。）。

■児童生徒数の見込み

(H25.4現在)

学校名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
堀切小	103	92	85(11)	80	72	70	64(6)
伊良湖小	39	41	35(4)	32	27	29	26(1)
和地小	62	63	58(6)	47	47	54	53(6)
伊良湖岬中	130	106	117(30)	115	116	103	86(27)
野田中	108	98	93(24)	77	80	77	79(23)
六連小	86	83	74(7)	71	69	67	66(7)

() 内は1学級最少人数